

接種に関する Q&A

Q1. 基礎疾患を持っていますが、ワクチンを接種できますか

A. 慢性的な病気があってもワクチン接種はできる場合が多いです。主治医に接種可能か確認をとってから予約をお取りください。

Q2. 過去にアレルギー反応やアナフィラキシーを起こしたことがあります。接種できますか

A. 食物アレルギー、アレルギー体質があるという理由で接種を受けられないというわけではありません。アナフィラキシーなど重いアレルギー反応を起こしたことがある方は、接種後に通常より長く（30分間）待機していただき、速やかに対応できるようにします。問診の際、医師に相談してください。

Q3. 武田/モデルナ社のワクチンは、通常1回目接種から4週間後に2回目を接種することになっていますが、どのくらいずれても大丈夫ですか

A. 一番早くて21日後に接種を受けることができますが、それより前には受けることができません。標準の接種間隔を超えても（4週間以上になっても）、2回目接種を受けることはできます。なるべく早く2回目接種を受けてください。

Q4. 新型コロナワクチンとそれ以外のワクチンは、同時に接種することはできますか

A. 原則として、新型コロナワクチンとそれ以外のワクチンは、同時に接種できません。新型コロナワクチンとその他のワクチンは互いに、片方のワクチンを受けてから2週間後に接種可能です。

Q5. 子供はワクチンを接種できますか

A. 今回使用する武田/モデルナ社のワクチンは、12歳以上が接種対象となります。（接種日に満12歳以上の方）12～15歳の接種においては、原則保護者の同伴が必要となります。予診票に保護者の署名も必要となり、署名がなければワクチンの接種は受けられません。

Q6. ワクチンを接種することができないのはどのような人ですか

A. 以下の方はワクチンを接種することができません。

- ・明らかに発熱している人（37.5℃以上）
- ・重い急性疾患にかかっている人
- ・ワクチンの成分に対しアナフィラキシーなど重度の過敏症の既往がある方

ご自身が当てはまると思われる方は、接種が可能か、かかりつけ医にご相談ください。本会場での相談はお受けできませんのでご了承ください。

Q7. 妊娠中・授乳中でもワクチンを接種することができますか

A. 妊娠中・授乳中でも、ワクチンを接種することができます。武田/モデルナ社のワクチン添付文書では、妊婦又は妊娠している可能性のある女性には有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ接種することと記載されています。妊娠中に新型コロナウイルスに感染した場合、特に妊娠後期は重症化しやすいとされていますので、かかりつけ医と相談し接種を検討してください。新型コロナワクチンが母乳に悪影響を及ぼすという報告はありません。

妊娠中、または妊娠している可能性のある方、授乳中の方は問診時医師へお伝えください。

Q8.ワクチン接種後、生活上注意することはありますか

A.ワクチン接種後、接種部位の痛みや倦怠感・発熱・頭痛・関節痛などが生じることがありますので、なるべく当日・翌日に予定を入れない方が良いでしょう。
ワクチン接種を受けた当日は、激しい運動や飲酒は控えてください。入浴は問題ありませんが、注射した部位を強くこすらないようにしてください。

Q9.副反応にはどんなものがありますか

A.接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等があります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復します。また、稀にアナフィラキシー（急性のアレルギー症状）が発生したことが報告されています。そのような場合は接種会場や医療機関ですぐに治療を行う体制を整えています。

Q10.副反応は1回目より2回目接種後のほうが強いと言われているのはなぜですか

A.1回目のワクチン接種でいくらか免疫がつくことで、2回目接種の方が免疫反応が起こりやすくなるためです。

Q11.ワクチン接種後に発熱、痛みが出た場合はどうすればよいですか

A.ワクチンによる発熱や接種部の痛みは、1～2日以内に起こることが多く、必要な場合は解熱鎮痛剤（アセトアミノフェン）を服用してください。2日間以上熱が続く場合や症状が重い場合は、医療機関等への受診や相談をご検討ください。

Q12.ワクチン接種で新型コロナウイルスに感染することはありますか

A.ワクチンを接種したことが原因で新型コロナウイルスに感染することはありません。

Q13.ワクチン接種後は、新型コロナウイルスに感染しませんか？

A.各種研究により、ワクチン接種により90%程度の発症予防効果があると言われていますが、感染予防効果を測定することは困難です（現在疫学的調査が進められています）。今後の変異株流行状況においては、ワクチンの効果が減弱する可能性もあり、ワクチン接種後も引き続き感染予防やPCR検査等の対策を講じる必要があります。ただし、集団でのワクチン接種は個別の発症予防効果よりも意義があると捉えられ、社会的には積極的なワクチン接種が求められています。

Q14.ワクチンについて相談したいとき、どこに相談すればよいですか

A.基礎疾患のある方で、ワクチンを受けるかどうか相談したい場合は、かかりつけ医にご相談ください。ワクチン接種後に体に異常があるときには、かかりつけ医または鳥取県の「ワクチン相談センター」0120-000-406（9時～17時15分）へ連絡してください。